

<今回>262回目 2019年7月26日(金)15時~18時 602号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p74 日本の文献でさえも

<前回>261回目(19-7-8) 出席者 9名

資料(19-07-08-1)前回のまとめ(清水)

-2) 邪馬壹台国と邪馬臺国(清水)

-3) 百舌鳥古墳群等の世界遺産登録(神奈川新聞・清水)

-4) 松野連系図(清水)

A 報告 6月23日多元の会定例会に中国の田晶氏が参加した。大学時代の先生である蘇州大学英语教授呉本立氏の来日調査のコネ作りとのこと。インターネット窓口である西坂氏を通じて呉王夫差からの系図を事前に調査されて提供された。呉本立氏は79才、タイの副総理の方と共同執筆で東南アジア方面の呉姓の展開の歴史をまとめて出版された。それと同じで日本での呉王夫差からの系図を探し松野連の系図に行き当たったらしい。

B 資料 -2) 清水の論は3世紀では臺は至高文字であり、陳寿が自分に課した忌字として使用を避けたという論。最近「山大委国」と自称したのを、大はおおげさと邪馬壹(やまゐ)になおしたと考え直している。

-3) 世界遺産登録確定に伴う新聞報道、津堂城山古墳から出土した長持ち型石棺の巨大さから大王墓との見方があると紹介した。-4) 松野連の系図 岡田氏に急遽コピーしてもらった。古代史の話題の人物が年次と共に書かれている。呉王夫差から57年金印の宇閉、熊鹿文、107年帥升に当たると玖志加也、卑弥呼に当たる市鹿文(景初2年と書かれているので陳寿の三國志原本を見ている可能性がある)。その後倭の5王全員が出ていて年次が書き込まれている。また夜須の評督が出ているなど興味深い史料である。古田史学会員の平野雅廣氏が新古代学15に取り上げられている。江戸時代、明治維新後に系図ブームがあり、地方に眠っていた資料が公開されたものか。偽造には間違いないが、景初2年や評督など偽造者が参考にした史料がどう残っていたかなど興味深い。

懇親会7名 津多屋15238円(2000・7) -1238円

C 読書 p70 范曄の改変動機 読んでいないのに先走り纏っていた。改めて岡田氏から読み始めて頂いた。

1) 范曄の改変動機 ①漢書を訂正する時は断って訂正している。②三國志を訂正する時は断って訂正していない。2例上げている。檀石槐 東汗国を撃ち、千余家を得を に対して 檀石槐 東倭人国を撃ち、千余家を得 としている。後漢書全巻の再末尾が魏書を下敷きにしてるのは文面が酷似しているから分かるが 汗国が誤りだとか魏書からの引用だとか記していない。汗国が誤りで、倭人国に断りなしに修正している。(范曄には海に潜って魚貝類を大量に採るのは汗人ではなく倭人という認識があった。)

2) 1, 2世紀の倭人国は天子を称していない。先行して邪馬臺国と名乗っていたとは考えられない。邪馬臺国は5世紀の范曄の認識である。(それでは何故范曄は1, 2世紀の歴史書後漢書に天子も称していない集団の都に臺の文字を使用したのか)

3) 邪馬壹国と邪馬臺国の間 後漢書に壹と臺の錯誤は存在しない。倭国を代表する邪馬国、邪馬城を中心の王城とする倭国、壹は倭(ゐ)であるのに準じて臺は大倭(たいゐ)の現地王の漢字表記、7世紀の隋書は大倭王の名乗りに倭という卑字を当てた。范曄は臺にタブー意識はないので夷蛮の王のいる場所として臺を用いた。

4) 3世紀の邪馬壹国と5世紀の邪馬臺国は同一王国である。(2世紀も邪馬臺国、3世紀に邪馬壹国、5世紀は倭国、7世紀に邪馬倭国に)

次回日程 19-8-9(金) 16時から18時 601号室

-8-26(金) 15時から18時 603会議室

-9-9(月) 16時から18時 601会議室